



十六銀行

十六アジアレポート 2019年5月号

JUROKU ASIA REPORT MAY 2019

2019年5月10日 発行

十六銀行 法人営業部 海外サポート室

目次

1. シンガポール:「コンビニ事情」
シンガポール駐在員事務所 富田邦裕
2. タイ:「インターネット広告費に見る、タイの広告戦略の特徴」
バンコク駐在員事務所 堀江幸康
3. 上海:「中国コーヒー市場での新たな挑戦」
上海駐在員事務所 浅野耕示
4. ベトナム:「『BIDV ビジネスセミナー & 交流会』開催」
ベトナム投資開発銀行 ジャパンデスク 大橋豪
5. インドネシア:「MRTに乗車して」
バンクネガラインドネシア ジャパンデスク 中嶋幸人
6. 為替相場情報

本書中の情報は情報提供のみを目的として作成されたものであり、何らかの行動を勧誘するものではありません。ご利用に関しては全てお客様御自身でご判断くださいますよう、宜しくお願ひ申し上げます。当資料は信頼できると思われる情報に基づいて作成されていますが、当行及び執筆者はその正確性を保証するものではありません。また、本書中の情報は、法律上、会計上、税務上の助言を含むものではありません。法律上、会計上、税務上の助言を必要とされる場合は、それぞれの専門家にご相談ください。

1. シンガポール:「コンビニ事情」

シンガポール駐在員事務所 富田邦裕

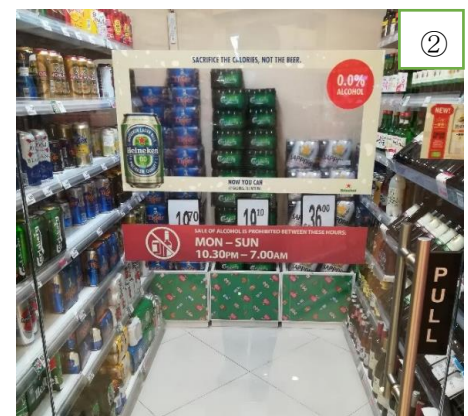
日本ではコンビニエンスストアが新たな事業モデルの模索に乗り出している。人手不足を起因として拡大戦略の転換に迫られているが、同様の課題を抱えるシンガポールでは既に特定の地域で時短営業や無人店舗を導入している。今回は現地のコンビニ事情についてレポートしたい。

国土が狭いシンガポールのコンビニは、セブンイレブン（約420店舗）とチアーズ（約160店舗）が主流である。中心部以外はガソリンスタンドに併設している。食料需要の9割以上を輸入に頼る現地では、肉まん（写真①）、サンドウィッチのほか、日本のセブンプレミアム商品、おにぎり、菓子パン等も売られている。ただ原材料は日本と異なり、緑茶は基本的に甘い仕様だ。

また日本と比べると店舗面積は狭く、惣菜等の品揃えはバラエティに欠け、値段も若干高いと感じる。さらにお酒類は法律で夜10時半～朝7時まで販売が禁止されておりショーケースの扉に鍵がかけられる（写真②）。現地の食品販売シェア（2017年）はスーパー54%に対してコンビニは6%の水準に留まり存在感が薄い。特に生活の中心はスーパーであり、一部の店舗で24時間営業を行うなど利便性はコンビニと肩を並べる状況にある。

かかる状況下、現地では既に無人コンビニがオープンしている。全てセルフ方式で、支払に利用できるのはNETS（ネット）というシンガポールで一般化しているデビットカードか、クレジットカード、EZ（イージー）リンクカード、スマートフォンの財布機能である。店舗のバックヤードでは、システムがリアルタイムで売上を監視し、在庫管理も自動化され、品薄になれば自動的に発注し商品の不足を管理している。人件費の節約は、24時間営業前提で1店舗当り週平均180時間の労働力削減をもたらすという。既に一部の有人店舗でも朝7～夜11時営業や、平日のみの営業など、時短営業の取組みがあるほか、セルフレジ併設（写真③）、セルフラーメン調理スタンド（写真④）の設置もある。

現地のサービス業は日本と同じく人手不足という共通の課題を抱えているが、政府主導で生産性向上の対策が進んでいる。日本は「次世代型コンビニ」がスタートしたばかりである。生産性向上が再成長の鍵を握るが、利便性の観点からセルフ式の文化が根付くのか今後見守りたい。それと併せて筆者としては日本の商品をもっと導入し、さらに“日本化”が進むことを期待している。



2. タイ:「インターネット広告費に見る、タイの広告戦略の特徴」

バンコク駐在員事務所 堀江幸康

タイは、近年の堅調な経済成長を背景に、消費市場としての魅力を備えつつあると言われています。タイの人々が何から購買意欲を掻き立てられているのか、何か手掛かりになるものはないかと探しているうちに、興味深いデータを見付けることができました。2018年の広告支出額です。

2018年 広告支出額（日本）

	広告費 (億円)	前年比 (%)
マスコミ四媒体広告費	30,937	▲ 3.6
テレビメディア	19,123	▲ 1.8
ラジオ	1,278	▲ 0.9
新聞（折込含む）	8,695	▲ 6.7
雑誌	1,841	▲ 9.0
インターネット広告費	17,589	16.5
プロモーションメディア広告費	16,774	▲ 0.9
屋外（看板・ネオン等）	3,199	▲ 0.3
交通・移動体	2,025	1.1
映画・展示・映像、他	3,585	5.8
その他	7,965	▲ 1.7
総広告費	65,300	2.2

※株式会社電通『2018年日本の広告費』を基に、十六銀行バンコク駐在員事務所が作成。

2018年 広告支出額（タイ）

	広告費 (100万バーツ)	(円換算、億円)	前年比 (%)
マスコミ四媒体広告費	82,586	2,890	3.3
テレビメディア	70,369	2,463	7.0
ラジオ	4,802	168	7.3
新聞（折込含む）	6,100	214	▲ 20.8
雑誌	1,315	46	▲ 32.3
インターネット広告費	1,605	56	6.1
プロモーションメディア広告費	21,265	744	6.2
屋外（看板・ネオン等）	6,833	239	6.9
交通・移動体	6,067	212	3.2
映画・展示・映像、他	7,312	256	7.4
その他	1,054	37	11.4
総広告費	105,455	3,690	4.0

※AGB Nielsen Media Research (Thailand) Ltd.の調査資料を基に、十六銀行バンコク駐在員事務所が作成。

■タイのインターネット利用者はインターネット広告を見ていない？

日本・タイともに、全体の広告費は前年比で増加していますが、紙媒体（新聞・雑誌）が大きく減少しており、「新聞離れ」・「雑誌離れ」が進んでいることが伺えます。

その大きな要因となっているのは、インターネットの普及です。

日本ではインターネット利用者は既に1億人を突破しており、その普及率も80%を超えています。また、総務省『平成30年版 情報通信白書』では、2017年に初めてスマートフォンの世帯保有率がパソコンの世帯保有率を上回ったことが報告されています。

こうした背景から、日本ではインターネット広告費が5年連続で二桁伸長を続けており、2018年も前年比16.5%の増加となりました。

一方のタイはどうでしょうか。

タイ王国電子取引開発機構（ETDA）によれば、タイにおいても、インターネット利用者は2017年時点で4,520万人に達しており、2007年の1,610万人から10年間で3倍近くに増加しています。また、携帯電話の契約数は1億2480万台に達しており、国民の数を上回る携帯電話がタイ国内に出回っています。

しかしながら、インターネット広告費に目をやると、2018年は6.1%の増加にとどまっています。尚、前年（2017年）は12.6%の減少でした。

また、日本ではテレビメディアに匹敵するボリュームの広告費がインターネットに投じられていますが、タイではテレビメディアとインターネットとの間に非常に大きな差が存在しています。

タイにおいては、インターネット利用者の爆発的な増加があるにもかかわらず、インターネット広告費がさほど投じられていない状況が窺えます。

このデータから、タイのインターネット利用者は、インターネット広告からはさほど購買意欲を掻き立てられていないのではないのかという仮説を立てることができます。

■「Influencer（インフルエンサー）」の情報発信がムーブメントに

では、タイのインターネット利用者はいったい何に注目しているのでしょうか？一つのキーワードとして「Influencer（インフルエンサー）」が挙げられます。

日本では、Instagram（インスタグラム）やFacebook（フェイスブック）を始めとしたSNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）やYouTube（ユーチューブ）をはじめとした動画共有サービスが広がりつつありますが、タイでも同様の広がりが見られます。

最近ですと、日本では「YouTuber（ユーチューバー）」や「Instagrammer（インスタグラマー）」といった職業が認知されるようになってきましたが、タイでは、芸能人やモデル、歌手が発信者となっているSNSがほとんどです。

タイの人気芸能人がInstagramのFollower（フォロワー）の数を競い、そのランキングがサイトになったものも存在します。ランキング上位になると、そのフォロワーが1,000万人を超える芸能人も存在します。

購入したグッズ、使った化粧品、出掛けた場所、好きな歌謡曲、食べたもの…。

人気芸能人達の情報発信がたくさんフォロワーに伝播し、それがまたフォロワーから多くの人に伝播していく。まさに影響力のある情報発信者、即ち「インフルエンサー」がタイの多くの人々の購買意欲を掻き立てているように見受けられます。

順位	名前	IG	フォロワー数	ジャンル
1	BLACKPINK	@lalalisa_m	18,053,771	ミュージック 芸能
2	แพท ชัยพร	@aun_patchrapa	10,402,941	ミュージック 芸能
3	บอย โกสิยพงษ์ GOT7	@boykosiyong	9,308,245	ミュージック 芸能
4	โชน ชัยพร	@chorn_chai	8,813,750	ミュージック 芸能
5	ชhornmatartgirl	@chornmatartgirl	8,465,506	ミュージック 芸能

人気芸能人のInstagramのフォロワーの数を競うサイト「タイランド・スーパースター」
(<https://thailandsuperstar.com/instagram/topchart/7>)

■「共有感」「繋がり」を大切にするタイの人々

タイの人々には、「共有感」「繋がり」を大切にし、年代や出身地、所属する階層等でグループを形成するという特徴が見受けられます。また、そのグループの中で、誰かと同じ商品を使っている、同じものを食べている、同じ場所へ旅に出る、その繋がりを満足度に置き換えている人が多いようにも感じます。

経済成長により有望なマーケットに変わりつつあるタイ。効果的なプロモーションを行うためにも、タイの消費者をより理解するとともに、視覚に訴える広告に頼るだけでなく、売り出したい商品を「インフルエンサー」が手に取るような仕掛けを作るといった、日本とは違った広告戦略を展開していく必要があるのではないかと考えます。

3. 上海:「中国コーヒー市場での新たな挑戦」

上海駐在員事務所 浅野耕示

2018年に飲料品業界でインパクトのあるニュースの一つとして、ラッキンコーヒー (luckin coffee・瑞幸珈琲) が、サービス開始1年で中国国内に2,000店舗も開店したことが挙げられます。スターバックスが、およそ19年かけて3,000店舗まで拡大してきたことと比較すると、そのスピードには驚かされます。今回は、ラッキンコーヒーの特徴とコーヒー業界事情について触れてみたいと思います。

■ラッキンコーヒーについて

ラッキンコーヒーは2018年1月に北京で試験的な開業を経て、5月に正式開業しました。10月末の段階で、北京、上海、広州、西安、青島など全国21都市に約1,400店を展開し、年末時点で2,000店舗を突破しました。特徴的なのは、大型の資金調達をこれまでに4回(直近では2019年4月に約167.8億円を米系資産運用会社から調達)を行い、莫大な資金を背景に下記の取り組みを行いました。



【店舗の様子】

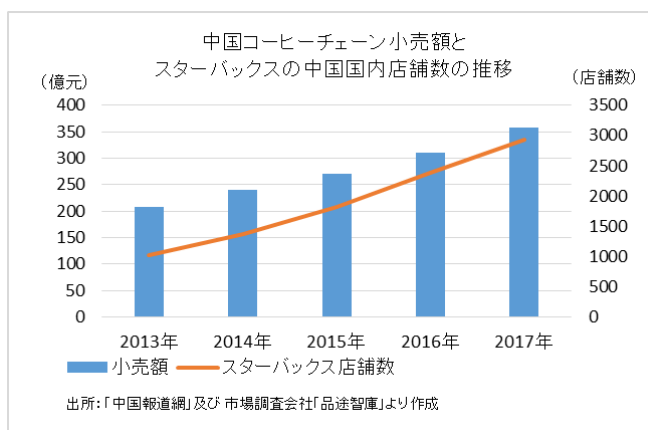
- ①店舗網の拡大(上述の通り)。
- ②広告投資を積極的に行い、本格的なコーヒー店舗であるブランドイメージを創出。
- ③消費者の足を店舗に向けるように、スマホを通じて無料クーポンを配布。

注文はスマホアプリ経由に限られており、スマホを通じて注文と支払いを終えると、例えば「3分後にはコーヒーが準備できている」旨の通知がされると同時に、QRコードが発行されます。これは受け取りの際に自分が支払い済みであることを示す役割を果たします。

■コーヒー業界事情

中国ではインスタントコーヒーが主流であるものの、所得の向上によりそのシェアは下降傾向にあります。一方でコーヒーチェーン店における小売販売額は上昇傾向にあります。

また、飲食品のネットデリバリーのうち、ドリンクデリバリーが2017年には前年比200%超の成長を遂げた、とも言われており、デリバリーとの連携が重視されています。ラッキンコーヒーは開業時よりデリバリーに対応していますし、スターバックスもアリババ傘下の企業と連携して、デリバリーを開始(2018年8月)しています。



■所感

間もなく創業1年を迎えるラッキンコーヒーは、多額の資金を投じて急速な拡大路線を採っています。こうした中国特有の手法が、コーヒーを含めたドリンク業界にどのような影響を与えるのか、今後の動向を注視していきたいと思っています。

4. ベトナム:「『BIDV ビジネスセミナー & 交流会』開催」

ベトナム投資開発銀行 ジャパンデスク 大橋豪

4月18日(木)、ベトナム・ハノイ市において、ベトナム投資開発銀行(BIDV)と同行と提携する当行を含めた日系金融機関16行庫との共催により、ベトナムのビジネス環境に関する情報提供や企業同士のネットワーク構築を目的とした「BIDV ビジネスセミナー&交流会」を開催しました。

<BIDV概要>

設立	1957年4月
本社	ベトナム・ハノイ市
総資産	566.2億USD
預金残高	426.8億USD
貸出残高	421.0億USD
従業員数	25,416名
国内拠点	支店: 190 出張所: 871

<BIDVジャパンデスク概要>

設置	2013年11月
提携金融機関	33の日系金融機関
日本人出向	15行庫より16名
日系取引先	約650社
業務内容	日系企業へのサービス提供 日系企業向け商品等の開発

※いずれも2018年12月時点

6回目の開催となった今回は、現地日系企業を中心に179社203名(うち当行お取引先さま28社30名)に参加いただき、過去最大規模となりました。

■BIDVについて

BIDVはベトナム北部の首都ハノイに本店を構え、全国に1,000以上の拠点を有するメガバンクです。ハノイとホーチミンの両都市に日本語対応のスタッフが常駐するジャパンデスクを設置し、日系企業をきめ細かくサポート。ジャパンデスクの法人顧客数は、2013年の設立当初の110社余りから、現在、約650社まで増加。十六銀行など日本の地域金融機関を中心に33行庫と提携し、提携行から筆者を含めた日本人を計16名受け入れています。

■セミナー&交流会

第一部のセミナーでは、東京海上日動リスクコンサルティング株式会社の林将大氏、一般財団法人海外産業人材育成協会(AOTS)の戸田英信氏をお招きし、ベトナム事業に伴うリスクや人材育成支援に関する補助事業などについてご講演いただきました。

第二部の交流会では、セミナーに参加した各行庫のお取引先さま同士が新たなビジネスチャンスを広げる場として、積極的な交流が行われました。また、ベトナム法制度に関する運用や解釈をはじめ、現地日系企業が抱える課題への対応方法やローカルサプライヤーに関する情報など、様々な意見交換がなされました。多くの参加者より、次回もぜひ開催して欲しいとの意見が多く寄せられており、今後こうしたイベントを定期的に開催していく予定です。

■所見

本セミナーの冒頭でBIDVは、「ベトナム経済が堅調に推移する中、日系企業の事業も多角化している。引続き、ベトナムにおける日系企業の事業活動を支援していきたい。」と表明。2018年にベトナムで認可された外国直接投資(FDI)総額が2年連続トップとなった日本への期待は依然大きく、日系企業へのサポート体制を強化していく方針にあります。

こうした中、当行におきましてもBIDVなどと連携し、現地での資金調達のための橋渡しや現地の情報提供等を通し、今後も最大限サポートさせていただきます。



<シェラトンハノイホテル 左側セミナー、右側交流会の様子>

5. インドネシア:「MRTに乗りして」

バンクネガラインドネシア ジャパンデスク 中嶋幸人

前月に引き続き、現在ジャカルタでホットな話題となっているMRTについてレポートします。4月1日に開業したMRTに実際に乗車し、その様子を報告します。

■日本より厳しい利用時のマナー

3月下旬の試乗期間中、乗客が駅構内で座り込みお弁当を食べる様子や、車内にゴミが散乱する様子が日本のメディアでも報道されていたようですが、開業後数週間経って乗車してみると、そういった状況は全く見られませんでした。駅構内やMRT車内にかなりの人数の警備員が配置され、そういった行為を発見次第、厳重に注意を与えているとのこと。駅構内は飲食禁止となり、構内にはゴミ箱が設置されておらず、ゴミを発生させないような仕組み作りがなされています。大統領も、マナーを身に付けてほしいと利用者に呼び掛けていました。駅構内および車内で飲食をした者は最大50万ルピア（約4千円）の罰金が科せられることになったようです。地下鉄にはホームドアが設置され、ドア前には黄色い線が引かれており、整列乗車を促しています。インドネシア人にも整列乗車が浸透してきたようで、黄色の線に従って列を作る光景を見ることができます。

乗車してみると、車両は日本製ということもあり、設備や乗り心地など日本で電車に乗る感覚と全く同じように感じました。優先席やドア上にある液晶画面での各種案内など、本当に日本の電車と同様の仕様となっていることが分かります。



【ホームドアと整列乗車のための黄色い線】



【右側を歩くよう指示がある】

■開業数日前に決定した運賃

地下鉄の運賃は、開業の数日前に決定しました。当初は均一運賃を採用するとの報道もありましたが、結局、乗車距離を基準に運賃を算出する方法を採用しました。具体的には、10キロあたり8,500ルピア（約68円）を基準とし、初乗り運賃が3,000ルピア（約24円）、現在開通している最長区間で14,000ルピア（約112円）という設定となっています。乗車にはインドネシアの主要銀行が発行しているE-Money（電子マネー）が利用できるほか、MRT専用のICカードの利用も可能です。

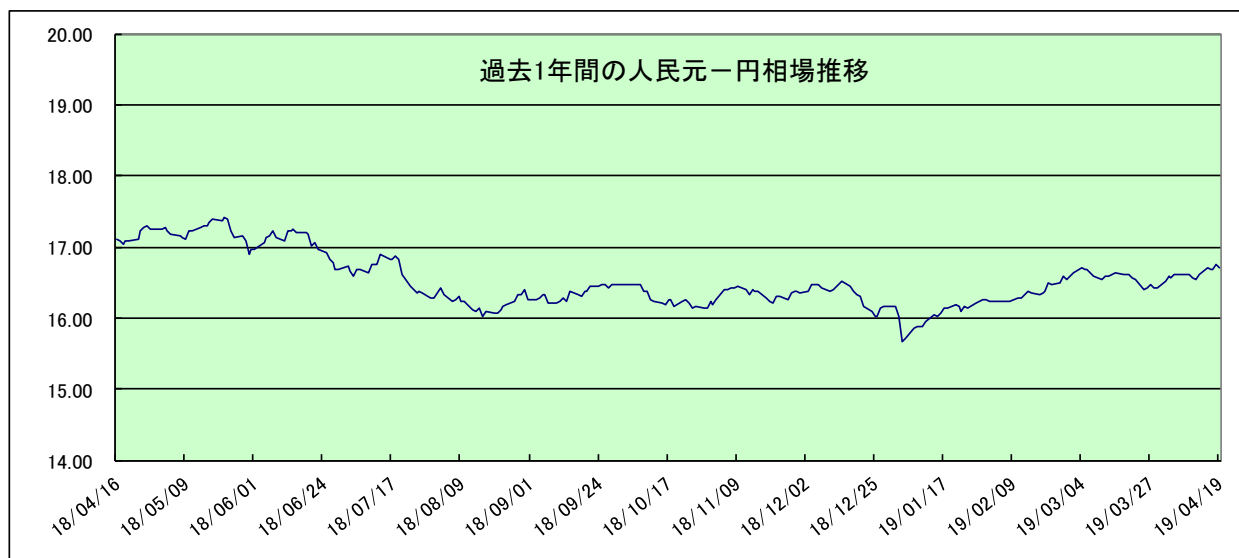
今回開通したMRTによって、ジャカルタ市内の交通渋滞が劇的に緩和されることは考えにくいものの、MRTの開通がジャカルタ市民の暮らしを大きく変えるきっかけにはなり得ると思います。地下鉄というハード面においても、マナーというソフト面においても、ジャカルタ市民は大きな一歩を踏み出したような気がします。

6. 為替相場情報

(1) 人民元一円為替相場(中国人民銀行公表仲値)

(単位:1人民元当たりの日本円)

(月)		(火)		(水)		(木)		(金)	
3月25日	16.40178	3月26日	16.41443	3月27日	16.45874	3月28日	16.42090	3月29日	16.42926
4月1日	16.51091	4月2日	16.58540	4月3日	16.56617	4月4日	16.61516	4月5日	-
4月8日	16.61875	4月9日	16.60275	4月10日	16.56013	4月11日	16.54342	4月12日	16.60302
4月15日	16.69477	4月16日	16.68780	4月17日	16.68920	4月18日	16.74733	4月19日	16.70174

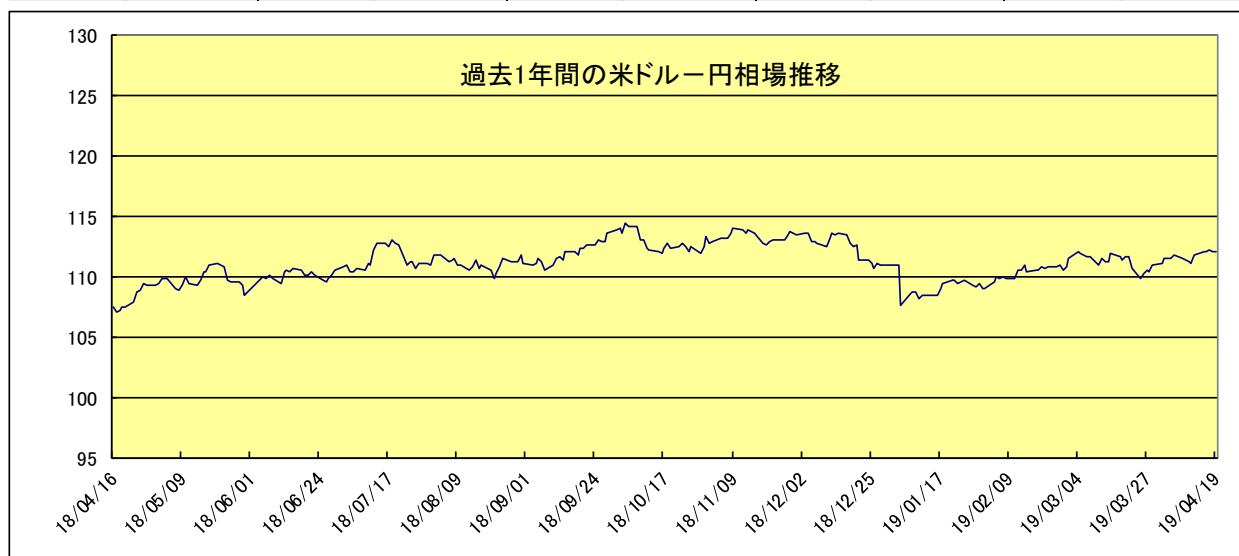


上記表、及びグラフはこの公表仲値を便宜的に1人民元当たりの日本円へ換算し直した相場です。
そのため、正式な人民元相場が必要な場合は、中国人民銀行にお問い合わせ下さい。

(2) ドルー円為替相場(当行公表仲値)

(単位:1ドル当たりの日本円)

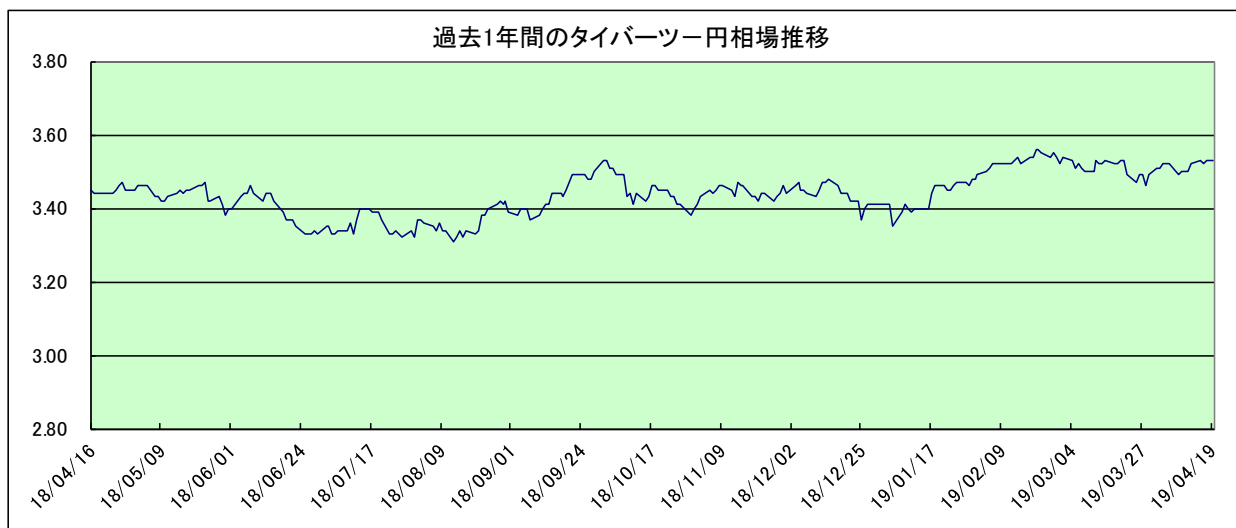
(月)		(火)		(水)		(木)		(金)	
3月25日	109.91	3月26日	110.21	3月27日	110.53	3月28日	110.36	3月29日	110.99
4月1日	111.10	4月2日	111.44	4月3日	111.52	4月4日	111.54	4月5日	111.81
4月8日	111.44	4月9日	111.42	4月10日	111.20	4月11日	111.11	4月12日	111.80
4月15日	112.01	4月16日	112.00	4月17日	112.14	4月18日	112.04	4月19日	112.01



(3) タイバーツ-円為替相場(当行公表仲値)

(単位: 1バーツ当たりの日本円)

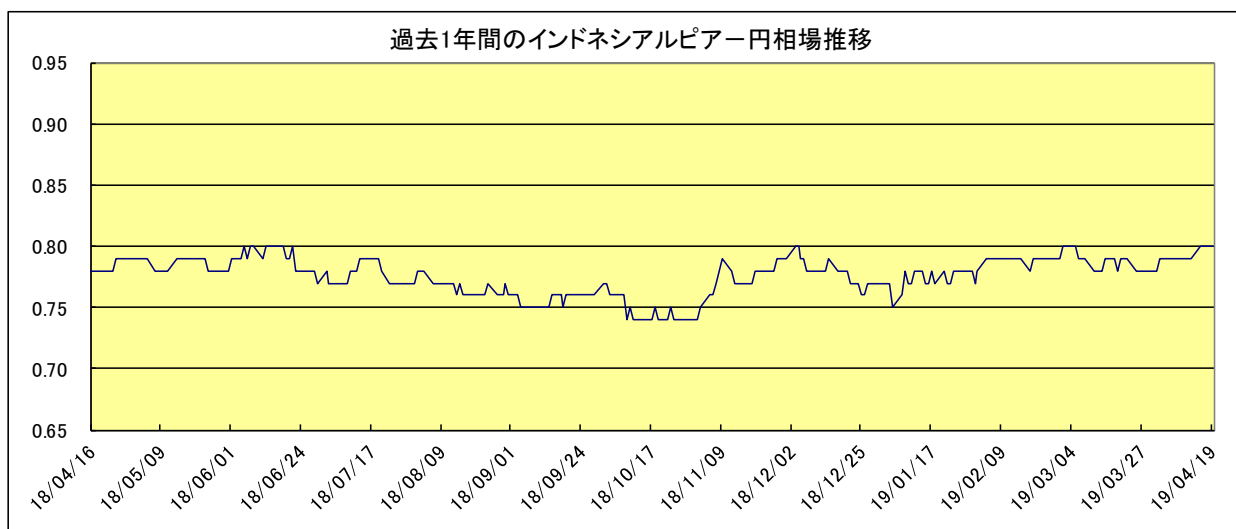
(月)		(火)		(水)		(木)		(金)	
3月25日	3.4700	3月26日	3.4900	3月27日	3.4900	3月28日	3.4600	3月29日	3.4900
4月1日	3.5100	4月2日	3.5100	4月3日	3.5200	4月4日	3.5200	4月5日	3.5200
4月8日	3.4900	4月9日	3.5000	4月10日	3.5000	4月11日	3.5000	4月12日	3.5200
4月15日	3.5300	4月16日	3.5200	4月17日	3.5300	4月18日	3.5300	4月19日	3.5300



(4) インドネシアルピア-円為替相場(参考値)

(単位: 100ルピア当たりの日本円)

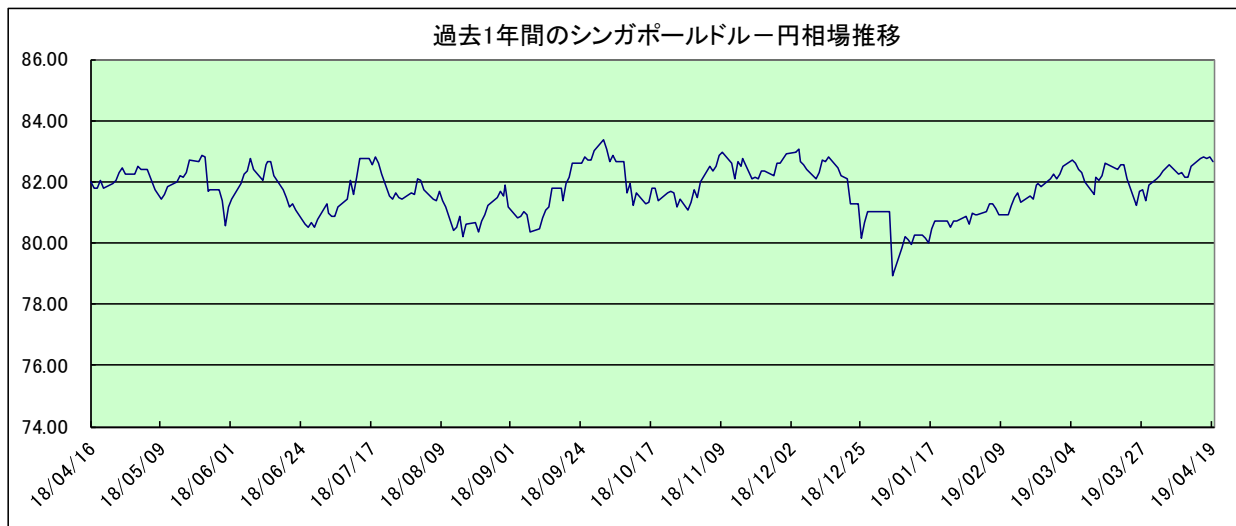
(月)		(火)		(水)		(木)		(金)	
3月25日	0.7800	3月26日	0.7800	3月27日	0.7800	3月28日	0.7800	3月29日	0.7800
4月1日	0.7800	4月2日	0.7900	4月3日	0.7900	4月4日	0.7900	4月5日	0.7900
4月8日	0.7900	4月9日	0.7900	4月10日	0.7900	4月11日	0.7900	4月12日	0.7900
4月15日	0.8000	4月16日	0.8000	4月17日	0.8000	4月18日	0.8000	4月19日	0.8000



(5) シンガポールドル-円為替相場(当行公表仲値)

(単位:1ドル当たりの日本円)

(月)		(火)		(水)		(木)		(金)	
3月25日	81.2500	3月26日	81.7000	3月27日	81.7300	3月28日	81.4000	3月29日	81.8800
4月1日	82.0700	4月2日	82.2200	4月3日	82.3300	4月4日	82.4700	4月5日	82.5700
4月8日	82.2400	4月9日	82.2800	4月10日	82.1500	4月11日	82.1700	4月12日	82.4800
4月15日	82.7800	4月16日	82.8000	4月17日	82.7800	4月18日	82.8100	4月19日	82.6300



(6) ベトナムドン-円為替相場(参考値)

(単位:1000ドン当たりの日本円)

(月)		(火)		(水)		(木)		(金)	
3月25日	4.7300	3月26日	4.7500	3月27日	4.7600	3月28日	4.7500	3月29日	4.7800
4月1日	4.7800	4月2日	4.8000	4月3日	4.8000	4月4日	4.8000	4月5日	4.8100
4月8日	4.8000	4月9日	4.8000	4月10日	4.7900	4月11日	4.7800	4月12日	4.8100
4月15日	4.8200	4月16日	4.8200	4月17日	4.8300	4月18日	4.8200	4月19日	4.8200

